

事後評価結果（平成16年度）

担当課：岐阜県基盤整備部道路建設課
 担当課長名：棚瀬直美

事業名	一般国道248号 可児バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	岐阜県
起終点	自：岐阜県可児市下恵土 至：岐阜県可児市今渡			延長	1.44km

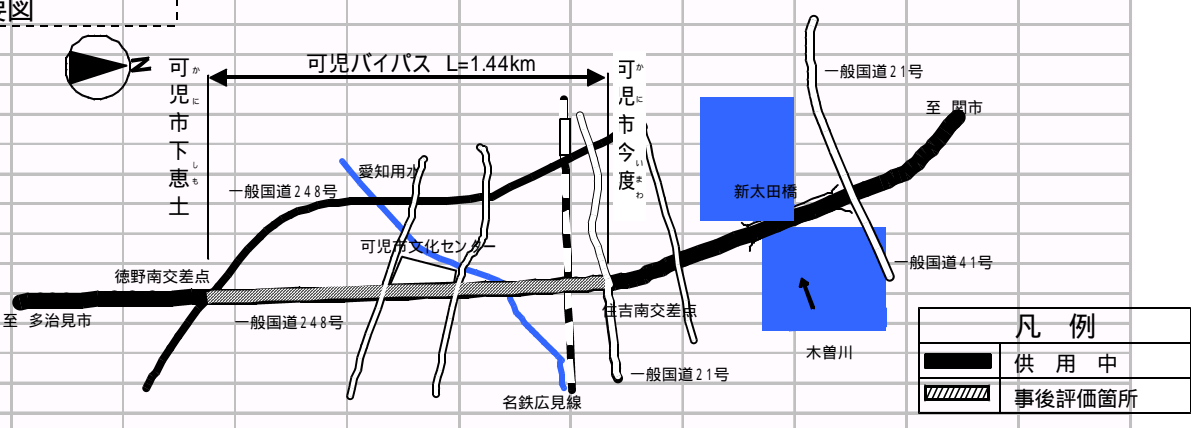
事業概要

一般国道248号は、愛知県蒲郡市から岐阜県岐阜市に至る延長約96kmの主要な幹線道路であるほか、岐阜県南部の主要都市間を連絡する重要な路線である。可児バイパスは、可児市街地の西部に位置し、名鉄広見線との立体交差を含む延長1.44kmの2車線（完成4車線）道路である。

事業の目的・必要性

可児バイパスは、現道の国道248号や可児市街地における交通混雑の緩和を図るとともに、地域連携、産業経済を支える広域的な都市交通ネットワークの形成に大きく寄与するものである。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：S63年度 都市計画決定：S50年度	用地着手：H元年度 工事着手：H10年度	供用年：(当初) H16/ (暫定/完成) (実績) H14/	変動	0.9倍
	事業費	計画時 (名目値) 63.2/ (暫定/完成) (実績値) 62.2/ 億円	実績 (名目値) 77.3/ (暫定/完成) (実績値) 76.1/ 億円		変動	1.2倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	実績 (暫定/完成)		変動	4.7%
	旅行速度向上 (供用前現道 当該路線) (供用直前年次) H11年度 (供用後年次) 年度	km/h	交通事故減少 (供用前現道 供用後現道) (供用直前年次) 年度 (供用後年次) 年度	94 64 件/億台・日		
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C 5.6	総費用 70億円 (事業費：67億円 維持管理費：3億円)	総便益 393億円 (走行時間短縮便益：347億円 走行経費減少便益：41億円 交通事故減少便益：5億円)	基準年 H10年	
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C 4.3	総費用 102億円 (事業費：100億円 維持管理費：2億円)	総便益 438億円 (走行時間短縮便益：391億円 走行経費減少便益：41億円 交通事故減少便益：5億円)	基準年 H16年	
	事業遅延によるコスト増	費用増加額		便益減少額		
	事業遅延の理由	予定より2年早く供用を行った。				

客観的評価指標に対応する事後評価項目

- 一般国道248号における踏切道の除却
 - 可児バイパスは名鉄広見線を渡架することにより、1日158回の通過列車による遮断を回避
 - 新規整備の公共公益施設と直結されたことによる効果

	<ul style="list-style-type: none"> 沿道に可児市創造文化センターが新設。年間約23万人が利用（平成15年度実績） 現道における交通量の減少、歩道の設置による安全性向上の状況 旧道の交通量が25,250台/日から17,070台/日に減少しており、年間物損事故件数も減少。 並行する高速ネットワークの代替路線として機能 平成17年3月に供用開始する東海環状自動車道の代替路線として機能 <p style="text-align: right;">他10項目について効果の発現が見られる</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>-----</p> <p>関連開発への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 可児バイパスの供用に伴い、沿道に文化施設（1施設）、商業施設（9施設）、医療施設（2施設）が進出している。 <p>道路利用者の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> 沿道住民へのアンケート調査の結果、約9割の人が広域交通と近隣交通の分離が図られていると回答し、約7割の人が可児バイパスの整備に満足していると回答。
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧道の騒音レベルがバイパス整備前は66dB（推計値）と環境基準を超えていたが、バイパス整備後の実測では64dBと環境基準を満たすようになった。 道路の植栽として大気環境推奨木や花街道の主幹木を採用。
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生資源の積極的な利用 建設発生土の抑制
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の整備効果は十分に発揮されており、住民等へのアンケート結果でも本事業に対する満足度が高いため、今後の事後評価は必要としない。 可児バイパスの供用に伴い、隣接する工区において、渋滞が発生していることから、関係機関と調整を行い、今後も継続して早期整備を要望していく。
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> 今後も事業計画段階からの住民との対話・協働が必要と思われる。
特記事項	<p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。